



be動詞を使わない受動態

英文法入門⑭

- Vp.p.の2つの意味
- 受動態と<SVC>の接点
- be動詞を使わない受動態
- コラム：SVC、進行形、受動態

Vp.p.の2つの意味



- Vp.p.には主に2つの意味の方向性がある
 - ① **Sが何らかの動作の対象であること** → **受動態**
 - ② **動作が完了した状態であること** → **完了形**
- ポイント：**Vp.p.自体が受け身の意味を持つ**

受動態と<SVC>の接点



- <SVO>の受動態と<SVC>を比較してみる

He is respectable.
S **V** **C**

{ He is respected.
S **V**

{ He is respected.
S **V** **C**

Vp.p.自体に受け身の意味が
あると考えれば・・・
<SVC>とも捉えられる

<SVC>



- <SVC>ではbe動詞を他の<SVC>動詞に変えて動詞の意味を含ませることができました

He was angry. 「彼は怒っていた」
S V C

He seemed angry. 「彼は怒っているように見えた」
S V C

be動詞を使わない受動態



- <SVC>をとる動詞は、受動態のbe動詞の位置に置くことで、**動詞の意味を加味した受動態**を作ることができる

He **was** respected. 「彼は尊敬されていた」
S V C

He **seemed** respected. 「彼は尊敬されている**ように見えた**」
S V C

be' + Vp.p. = 受動態

<SVC>動詞による受動態の例

- The heritage remained destroyed.
- She got excited.
- He has become well known.
- This fruit looks rotten.
- Stay tuned.
- The door kept blocked.
- The beef smells cooked enough.



コラム： SVC、進行形、受動態



基本文型のひとつとして学習した<SVC>はS=Cの関係を表すと説明しました。ただCには名詞だけじゃなく形容詞も入ることができ、その形容詞は常にSにかかる説明です。

ここで通常「進行形」「受動態」として扱われる「be + Ving」「be + Vp.p.」という形について（どちらもbe動詞を使った表現ですね。）

以下2つのポイントを踏まえて考えてみます。

- be動詞が作るベースの文型は<SVC>
- VingとVp.p.は形容詞として働ける

さてこう考えると、「進行形」と「受動態」は<SVC>という文型のCの部分にVingとVp.p.が形容詞として入っているように見えてきませんか？実はこの解釈でも全く問題ありません。今後「準動詞」の項で説明していきますが、be動詞と組み合わせなくてもVingとVp.p.はそれぞれ単体で「Vの行為が途中である」「Vの行為の対象である」という意味を持っています。それがCに入ることによってSの説明として機能しているというわけです。

ただ、VingやVp.p.は準動詞と呼ばれ、文中では名詞や形容詞や副詞としてふるまいつつも、文型を持つ動詞としても機能するという特徴を持っています単純に理解するために

「be + Ving」で「進行形」、「be + Vp.p.」で「受動態」と教えることになっているというわけ。だから<SVC>の文型をとる動詞が進行形や受動態のbe動詞の代わりに使えるのは当たり前といえば当たり前ということです。